

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
 ⑫ 公開特許公報 (A) 平4-127464

⑤Int.Cl. ⁵	識別記号	序内整理番号	⑪公開 平成4年(1992)4月28日
H 01 L 27/04 21/82 27/04 27/118	D	7514-4M	
	C	7514-4M	
		7638-4M H 01 L 21/82 7638-4M	P M
			審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑥発明の名称 マスタースライス方式集積回路装置用電源キャパシタセル

⑦特 願 平2-248410
 ⑧出 願 平2(1990)9月18日

⑨発明者 矢野 博之 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーホーリン株式会社内
 ⑩出願人 セイコーホーリン株式 東京都新宿区西新宿2丁目4番1号
 ⑪代理人 弁理士 鈴木 喜三郎 外1名

明細書

における電気的雑音の低減化に関する。

1. 発明の名称

マスタースライス方式集積回路装置用電源
キャパシタセル

(従来の技術)

従来のマスタースライス方式集積回路装置は、電源間の電気的雑音を低減する為に、マスタースライス方式集積回路装置の外部電源間に、キャパシタを接続していた。

2. 特許請求の範囲

- a) マスタースライス方式集積回路装置の入出力セル領域内において、
- b) キャパシタを構成するセルを有し、
- c) 前記キャパシタは電源間に接続されており、
- d) かつ、前記セルは、入出力セル配置領域内の任意の位置に、配置可能になっていることを特徴とするマスタースライス方式集積回路装置用電源キャパシタセル。

(発明が解決しようとする課題)

しかし、前述の従来技術ではキャパシタを、マスタースライス方式集積回路装置の外部に接続しているために、材料費の増加、組み立て費の増加、回路基板の大型化、という問題点を有する。

そこで本発明は、このような問題点を解決するもので、その目的とするところはマスタースライス方式集積回路装置の面積を増加させることなく、電源雑音の低減化を可能としたマスタースライス方式集積回路装置を提供するものである。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はマスタースライス方式集積回路装置に (課題を解決するための手段)

本発明のマスタースライス方式集積回路装置用電源キャバシタセルは、

a) マスタースライス方式集積回路装置の入出力セル領域内において、

b) キャバシタを構成するセルを有し、

c) 前記キャバシタは電源間に接続されており、

d) かつ、前記セルは、入出力セル配置領域内の任意の位置に、配置可能になっていることを特徴とする。

[実施例]

第1図は、本発明の一実施例におけるマスタースライス方式集積回路装置用電源キャバシタセル全体の平面図であり、101はマスタースライス方式集積回路装置用電源キャバシタセル、102は第一層目金属配線、103は第二層目金属配線、104はパッド電極開口部であり、パッド電極開口部104の下には、第一層目金属配線102と第二層目金属配線103とが、電気的絶縁膜を

く、別の層の金属配線及び、集積回路装置基板との間にキャバシタを構成するようにしても、同様の効果が得られる。

第5図は、本発明の一実施例におけるマスタースライス方式集積回路装置の一部平面図であり、301はマスタースライス方式集積回路装置、302はリードフレーム、303はトランジスタ配置領域、304はVDD側電源配線、305はVSS側電源配線、306は本発明のマスタースライス方式集積回路装置用電源キャバシタセル（以下、キャバシタセルと略す）であり、キャバシタセル306は、前記第1図及び、第2図に示された構造をなしている。307は入出力セル、308はパッド電極開口部、309はボンディングワイヤーであり、前記キャバシタセル306の配置位置は、前記入出力セル307の配置されていない、入出力セル配置領域内に配置され、前記VDD側電源配線304及び、前記VSS側電源配線305とに電気的に接続される。

なお、前記キャバシタセル306の使用個数は、

併んで配置され、キャバシタを構成する。105は電源接続端子であり電源配線VDD及び、電源配線VSSが接続される。なお、マスタースライス方式集積回路装置用電源キャバシタセルは、マスタースライス方式集積回路装置の入出力セル配置領域内の任意の位置に配置できるようセル化されている。

第2図は、第1図の線aにおける垂直紙方向の断面図であり、201、203、205は電気的絶縁膜、202は第一層目金属配線、204は第二層目金属配線とを示し、前記第一層目金属配線202と、前記第二層目金属配線204との間にキャバシタが形成される。206はマスタースライス方式集積回路装置基板、207はパッド電極開口部である。また、第2図の202、204、207は、それぞれ第1図の102、103、104と等しい。

なお、前記の実施例では、第一層目金属配線202と、第二層目金属配線204との間にキャバシタを形成しているが、これにとらわれることな

任意である。

第4図は、第3図における等価回路を示した電気回路図であり、401は本発明のマスタースライス方式集積回路装置用キャバシタセルによる電気的容量を示す。第4図に示されているようにキャバシタセル401を接続することにより、電源間に発生する電気的雑音を、吸収することができる。

なお、第4図に示されているマスタースライス方式集積回路装置用電源キャバシタセル401は、第3図のマスタースライス方式集積回路装置用電源キャバシタセル306と同じものを示す。

[発明の効果]

以上、述べたように本発明によれば、マスタースライス方式集積回路装置の入出力セル配置領域内にキャバシタを設け、このキャバシタを電源間に接続する構造にしたため、マスタースライス方式集積回路装置の面積を増加させることなく、電源間の電気的雑音の低減化を可能とすることがで

きる。これにより、部品点数の減少、組み立て費の減少、集積回路装置の安定動作、回路基板の小型化などの効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の一実施例におけるマスタースライス方式集積回路装置用電源キャパシタセル全体の平面図。

第2図は、第1図の線aにおける垂直縦方向の断面図。

第3図は、本発明の一実施例におけるマスタースライス方式集積回路装置の一部平面図。

第4図は、第3図における等価回路を示した電気回路図。

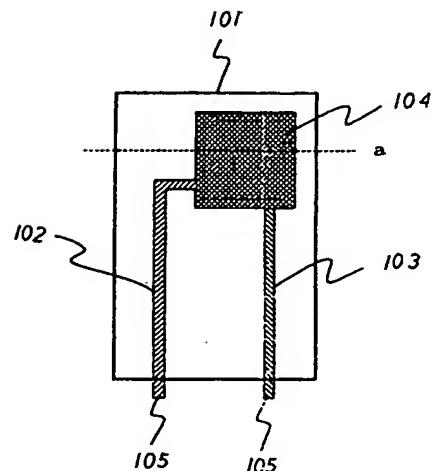
- 101 ……マスタースライス方式集積回路装置用電源キャパシタセル
- 102 ……第一層目金属配線
- 103 ……第二層目金属配線
- 104 ……バッド電極開口部
- 105 ……電源接続端子

電源接続端子

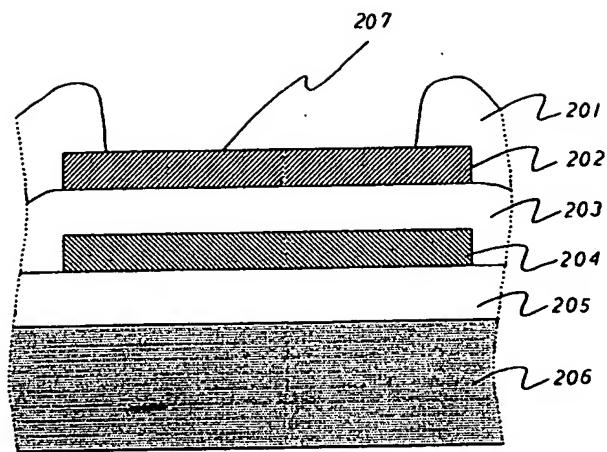
以上

出願人 セイコーエプソン株式会社
代理人 弁理士 鈴木喜三郎(他1名)

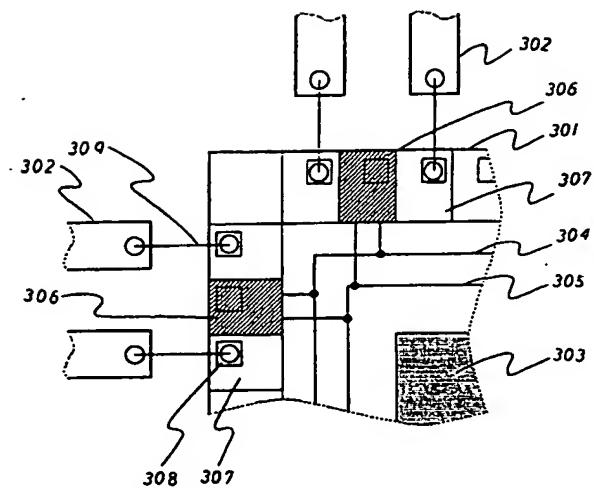
- 201, 203, 205 ……電気的絶縁膜
- 202 ……第一層目金属配線
- 204 ……第二層目金属配線
- 206 ……マスタースライス方式集積回路装置基板
- 207 ……バッド電極開口部
- 301 ……マスタースライス方式集積回路装置
- 302 ……リードフレーム
- 303 ……トランジスタ配置領域
- 304 ……VDD側電源配線
- 305 ……VSS側電源配線
- 306 ……マスタースライス方式集積回路装置用電源キャパシタセル
- 307 ……入出力セル
- 308 ……バッド電極
- 309 ……ボンディングワイヤー
- 401 ……マスタースライス方式集積回路装置



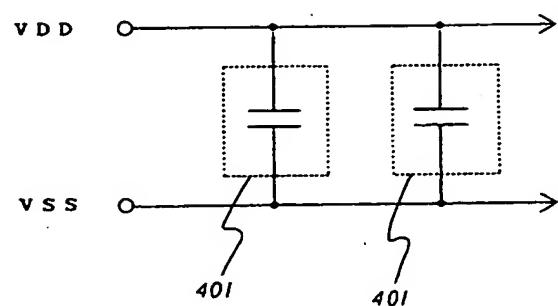
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図